

小西甚一著「国文法ちかみち」ちくま学芸文庫、筑摩書房、2016年1月10日刊を読む

「この本をどう読むか」

開倫塾

塾長 林明夫

1. この本は、ある分量で一区切りになるような述べ方をしてあるから、その区切りをうまく利用すること。
 - (1) ところどころ項目を改めたり、行を空けたりして、あまり目立たないように区切りがしてある。
 - (2) そこで休むのが、次の勉強を効率的に進める効果がある。
 - (3) しかし、勉強の予定とか、その人の程度とか、環境とかによって、どれだけ一回に読むかは、違ってくるものだろう。
2. しばらく読むうちに、自分のペースがわかってくるだろうから、いつまでに読み終えるという目標の下に、そのペースを乱さずに、平均した読み方で読むよう、自分を訓練してほしい。
3. (1) よみながら、自分でノートあるいは要点メモをつくること。
 - (2) 本文の中には、ちゃんと要点が示してあるし、特に覚えてもらいたいことは、注意をひくような印がつけてある。
 - (3) しかし、それは、一般的に言っただけの要点であって、その人にとっては、また別に注意をしなければならぬところが出てくるだろう。
 - (4) そんなところは、本に下線を引くとか、自分だけの検索を作るとか、要点の総まとめを創るとかの工夫が必要である。
 - (5) わたしがこの本で何を言おうとしているかという意図に重点を置き、あまりことばの端ばしにとらわれないようにすること。

<コメント>

1. (1) 小西甚一先生には、高校生用の「古文参考書・辞書」として
 - ① 「国文法ちかみち」(ちくま学芸文庫)
 - ② 「古文の読解」(ちくま学芸文庫)
 - ③ 「古文研究法」(ちくま学芸文庫)
 - ④ 「基本古語辞典」(大修館書店)この4冊があり、いずれも復刊されています。
○いずれもおすすです。

(2)小西甚一先生には、古文好きの高校生、先生用の参考書として、

- ①「日本文学史」(講談社学術文庫)
- ②「俳句の世界」(講談社学術文庫)
- ③「世阿弥、風姿花伝・花鏡」(小西甚一編訳)(たちばな出版)

この4冊があります。いずれも復刊されています。

○いずれもおすすめです。

(3)これらすべては、「古文」を学ぶ高校生や初学者用の参考書として書かれたものですが、すべて、先生用参考書として紹介する「日本文藝史Ⅰ～Ⅴ、補巻」で示された膨大な学博に裏付けられたものです。

○高校を卒業した後も、折に触れ、一生かけて学び続ける「古典」ともよべる「古文のテキスト」「辞書」として最もふさわしい作品と確信します。

2. (1)先生用の参考書としては、「日本文藝史Ⅰ～Ⅴ、補巻も」(講談社)

①小西先生が、91歳でお亡くなりになる直前まで、ご執筆されていた、ご遺稿です。

②よくぞここまでお書きになったと、その志の高さには、頭が下がるばかりです。

③大部ですが、ゆっくり読めば理解はできますので、先生方も、是非、ご挑戦ください。

(2)足利高校時代に古文を2年間ご担当いただいた青柳好信先生から、小西先生の参考書や辞書をご推薦いただき、読ませていただき、以来、小西先生のご著書を読むようになりました。東京教育大学(現筑波大学)時代の青柳先生の恩師が小西先生であったようで、余り違和感なく、小西先生のご著書を読むことができ、ありがたく思います。

(3)高校時代の国語の先生は、倉沢先生(現国)、青柳先生(古文)、飯野先生(現国)、村田先生(古文)、須永先生(漢文)と、今、考えれば綺羅星のような先生ばかりでした。

ありがたく思います。